

## 研修報告 E班 1グループ

### 1. 責任のある情報を公表するため 職員の役割を考える

情報公表する意義は「外部評価の向上」と「学内外課題の共有による問題改善」の2点が挙げられ、その目的は「社会的責任を果たす」ことにある。各部署で作成した情報を主幹部署が集約し、情報を精査する方法により公表する流れが主となるが、問題として（1）各大学間の情報を比較した際、算出根拠が各大学によって異なるため、数字が内包する意味が外部へ伝わらないこと（2）情報の対象者が欲する情報と大学が公表したい情報とにギャップがあること、の2点が大きく挙げられる。

以上を踏まえた上で情報の保証をどのようにするべきかを検討すると、各大学共通の統一された基準の策定と、根拠書類の保存や第三者によるチェック機能を活用していくことが必要である。そのために、職員は合意形成のプロセスを整えるべきである。各職員が公表する情報の内容をきちんと理解して、公表するための情報源となる人々（教員など）に対しても情報公表することの効果の説明して、協力体制を築いていかねばならない。

### 2. 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

質的転換が必要な理由の外的要因として（1）社会人基礎力といった社会からの要請（2）リカレント教育のニーズ向上（3）大学の国際競争力激化、内的要因としては（1）高等教育がユニバーサル段階になったことによる学生の質の変化（2）社会人・外国人学生増加による学習レベル到達度向上の必要性（3）不況下における就業力への学生が持つ潜在的ニーズ向上といった各3点が挙げられる。では質的変換のために何が必要か、を検討すると教職協働を基盤とした組織体制が不可欠となる。その下でアウトプットに特化したカリキュラム編成の構築、教育へのピアサポート、産学連携やプロジェクト学習などのコーディネートといった職員によるマネジメントが必要になる。

上記マネジメント構築のために、SNS・グループウェアといったICT活用をすることで学生の主体的な学習の機会を与える可能性が広がる。しかし、場所・時間を選ばずに学習機会が得られる一方で、その「学びの動機付けが難しい」という問題もある。

以上の問題を解決するために学生が面白いと思う教育をデザインする必要がある。そのために職員ができることは「ICTを活用した教材作成・履修カリキュラム編成のサポート」や「プロジェクト学習・産官学連携・インストラクショナルデザインを用いた教職協働による教育体制の構築」である。

### 3. 総括

情報公表・教育の質的変換両者の保証のために、教員・職員・学生から情報を正確に理解し、連携をとっていく為の組織作りが大切である。保証は大学全体ですべきものであり、そのためにも教職協働は不可欠である。今回の課題（問題点を含め）を自大学に持ち帰り、各々の大学にあったリンク方法で活用出来るように検討を目指したい。